

京都の太陽

北京交通大学学生代表

見学日時：2017年5月31日（水） 9:30-12:00

見学場所：オムロン京都太陽株式会社

見学概要

1時間の車での移動を経て、京都の朝日を浴びながら、私たちは9時半にオムロン京都太陽株式会社に到着した。見学の初めに、工場内の作業スタッフからオムロン京都太陽株式会社の成り立ち等の状況についての紹介があり、その紹介を通じて同社はオムロン株式会社と社会福祉法人太陽の家が共同出資して設立された会社であることを知った。その後、スタッフからオムロン株式会社のここ一年における各分野での業績及び従業員の出身地域の見取り図についての紹介があり、さらに企業のPRビデオを通じてオムロンの「われわれの働きで、われわれの生活を向上し、よりよい社会をつくりましょう」の企業理念について知ることができた。

次いで、私たちは工場内部の見学を行い、3フロアの見学を通じて私たちは、企業の社会的価値及びその経営理念を実現するための努力について知ることができた。1階は重度の障がい者のリハビリスペースで、2階は正式採用されたスタッフの作業場で、3階では電源及び血圧計を生産している。

工場にはまた生産管理の担当者がおり、彼らはスタッフへの定期的な健康診断を行い、日々の状況により作業時間を調整するなど、業務の手配や調整を行っている。また工場のスタッフである彼らは生産ラインや製品の設計に関わっている。工場では作業スタッフが自らの意向を簡単な絵として表現し、デザインスタッフとともにデザインプランを検討することを推奨している。「3S(整理・整頓・清掃)」の管理規則は工場全体の秩序だった運営をもたらしており、スタッフ用の特製の自動販売機は従業員への思いやりを体現している。



最後は質疑応答で、工場側から入社時の面接要件、従業員の起業への見解、1階の訓練生の待遇状況、従業員の体調不良時の対応、企業のPR方式等について詳しい回答が得られた。そして程団長の挨拶によりオムロン京都太陽株式会社での見学を終えた。

なぜですか？

問:オムロン京都太陽株式会社における障がい者に対する面接の流れとは？

答:入社する障がい者は主に健康相談関連の試験をパスする必要があり、身体機能について全面的な評価を行い、基本的な食事やお手洗いの使用の能力については必須事項であり、後は個人の仕事への意向による。

感想

企業と福祉の架け橋であるオムロン京都太陽株式会社は、障がい者への就業の機会の提供に注力し、安定した仕事と社会福祉を確保し、障がい者が自身の労働を通じて生きがいを取り戻す環境を構築している。

またオムロンは作業スタッフの正常な業務の実現のため、手や脚にハンデのあるスタッフのための開封用の吸盤道具、記憶力にハンデのあるスタッフのための部品装着用の指示灯など様々な作業台や道具を作っている。そしてスタッフがより便利に業務を行えるよう、彼らの業務における需要を満たすため、専門的な道具の製作室を設けている。また同時に、各人の状況に基づき、同社は特別指定の生産ラインを構築し、左手のみが使えるスタッフと右手のみが使えるスタッフと一緒に配置するなど、各自の特徴を發揮させ、共同での生産を行っている。全スタッフの公平性を保証し、ハンデを理由とした心理的負担を生まないよう、同社は全てのスタッフが座ったまま作業ができるようにしており、全ての作業台の高さを統一している。こうすることで、車いすに乗ったスタッフも複数の部署で作業ができ、一部スタッフの作業状態が不安定で随時調整が必要な点への対応を行っている。

同社の経営理念や管理モデルに私たちは大きな啓発を受けた。困難に対してはあらゆる方法を検討することで実現不可能と思われる物事を克服していく、小さな力でも自分たち自身の手で変革をすることはできるといったこと以外に、企業の社会的責任とは何か、何が企業における社会やあらゆる人々への貢献という信念なのかを教えられた思いがした。No charity, but a chance ! (保護より働く機会を) 私たちもこうした精神に習い、彼らへの尊重や理解をしていく必要がある。